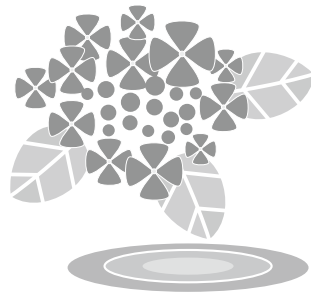


～ふる里の水と土に感謝して～

第18回 大師の里・彦左衛門の あじさいまつり 開催

多気町勢和地域資源保全・活用協議会が協賛



スタンプを押すスタンプラリー参加者

あじさいが咲き誇る多気郡多気町丹生の大師の里周辺で6月8日(日)午前9時から「第18回大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」が開催されました。



スタンプラリー用紙

「ふるさとの水と土に感謝して」をテーマに平成9年からスタートしたこのイベントも第18回を数え、当日は天候にも恵まれ、水銀と弘法大師「空海」ゆかりの地「丹生大師の里」で周辺を流れる立梅用水(水)・周辺の田んぼ(土)・1万本以上のあじさいが咲き乱れる緑豊かな資源空間(里)をまつりの舞台とした「水土里(みどり)の祭典」に町内外から約10,000人が集まり大勢の人でにぎわった。

オープニングセレモニーに続いて、あじさい姫の紹介、よさこい演舞、恒例の田んぼの綱引きなどが広い会場のあちらこちらで行われ、とりわけ途中手堀りのノミ跡が残るトンネルを抜ける立梅用水路の「ボート下り」は待ち時間が出るほどの大盛況であった。

水土里ネットみえも会場入口付近にブースを設け、会場内4ヶ所のポイントでスタンプを押してもらい、本会の愛称「みどりねっとみえ」を完成させることで、本会の愛称を啓発する「あじさいの小径スタンプラリー」を行った。1,000人ほどのお年寄りから子どもがスタンプラリーに参加し、中でも子どもたちは暑い中、元気にポイントを回り、最後にブースに戻り、答合わせの折、声を出して「みどりねっとみえ」を読んでもらい「水土里ネットみえ」の愛称を覚えてもらった。最後にスタンプラリーを完成させた参加者に花のポットをプレゼントし、参加者は大

喜びで花のポットを選んでいた。

また、「田んぼの綱引き大会」では参加したチームの士気を高めようと本年度も引き続き本会より「水土里ネットみえ会長賞」を設け、優秀な成績を収めたチームの栄誉を称えた。試合では町内外の老若男女ばかりでなく、海外からのチームも参加し、全身泥だらけになりながら熱戦を繰り広げ、周辺の観客も大いに盛り上がっていた。我が水土里ネットみえのイケメン5人衆も毎年の1回戦ボーイを返上しようと強い意気込みのもと全力で綱を引いたが力及ばず今年も1回戦で善戦空しく敗退。しかし、選手全員来年こそと雪辱に燃えていた。

他にも、田んぼのコンサート、もちまきなどいろいろな催し物や多くの団体が出店した特徴ある店々が軒を連ね、大にぎわいの1日であった。



花ポットを選ぶ参加者



綱引きで奮闘する我が水土里ネットみえ